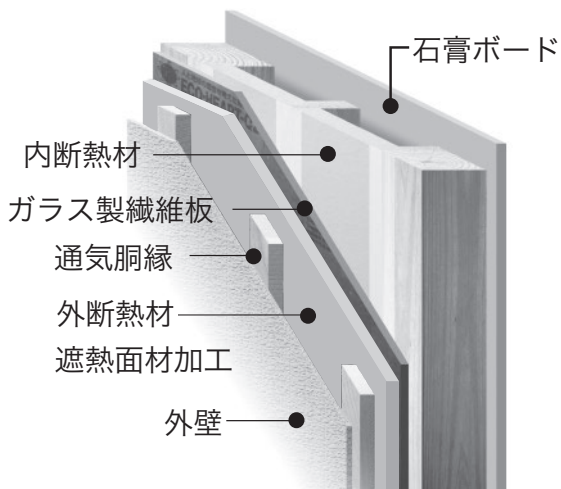


ハイブリッド・エコ・ハートQとHEAT20工法の違い！

ハイブリッド・エコ・ハートQ工法

表・1



ハイブリッド・エコ・ハートQの特徴は断熱・気密性能。

前号では、一般工法と「ハイブリッド・エコ・ハートQ」の違いについて解説しました。住宅建設で最も重要な基本構造は気密性能と断熱性能です。

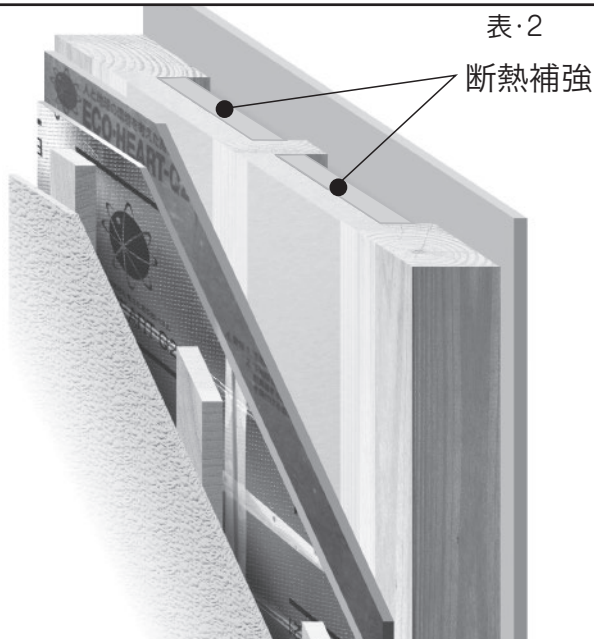
更に温暖化が凄まじい勢いで進行している現在では、遮熱施工の重要性が指摘されています。「ハイブリッド・エコ・ハートQ」の場合は、遮熱面材付き断熱材の施工で、いち早く遮熱についてもクリアーしています。

構造用面材の内側に断熱材を施工し、断熱と断熱材の圧縮強度で構造補強も実現させていますが、この内部施工で気密性能も担保されています。

合理的な工法で十分快適ですが、基準以上の快適性を求めるお客様も多くなり、それに答えるため民間基準の「HEAT20」に対応した工法も開発しています。

ハイブリッド・エコ・ハートQ(HEAT20/G2)

表・2



ハイブリッド・エコ・ハートQ+内断熱補強工法

「HEAT20」とは【Investigation committee of Hyper Enhanced insulation and Advanced Technique for 2020 houses】の略事で、欧米では、民間団体が中心となり、技術開発の目標を国の制度・基準とは一線を画して、「望ましい姿」を民間主導で提案する取組みがあり、この様な先導的な活動が足元の技術力を引き上げ、新たな技術革新を生み出しています。

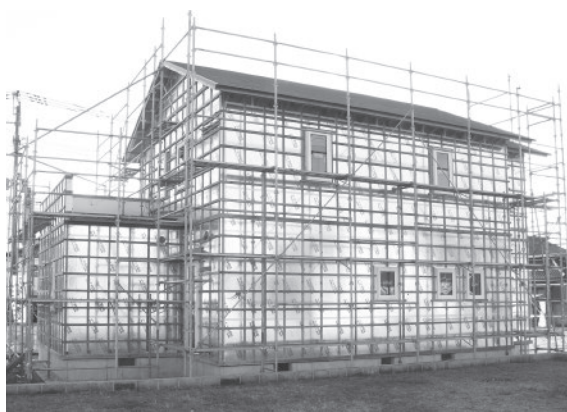
日本でも2009年、有識者・民間から構成される「2020年を見据えた、日本版住宅の高断熱化技術開発委員会（HEAT20）」がスタートしました。

史幸工務店は「HEAT20」の賛助会員として選ばれ、熊本県で唯一「HEAT20」に参加しています。

HEAT20」の委員会では、住宅生産者、住まい手に対して、単に省エネ対策のツールとしてではなく、室内環境・性能の向上に大きな効果をもたらす「外皮性能(断熱・遮熱・通風・採光など)の向上」の重要性と必要性を理解していただくために、室温という最もわかりやすい指標を用いて、エネルギー性能やコストとのバランスの中で目指すべき水準を示していくべきだと考えられています。

九州住環境研究会・史幸工務店がその過程で開発したのが『ハイブリッド・エコハートQ』（HEAT20/G2）対応工法です。表・1の「ハイブリッド・エコハートQ」工法の室内側に断熱材をプラスするだけで、希望する断熱性能を得ることが出来ます。これは基本となる『ハイブリッド・エコハートQ』工法の完成度が高いため、断熱補強の為の様々な施工強度、例えば気密性などを考えなくても済むからです。耐震性能や防火性能、遮熱性能など一切の工程をそのまま踏襲することで、断熱性能を強化できます。

ハイブリッド・エコ・ハートQ (HEAT20・G2) 施工例



銀色に輝く遮熱材